



Information

2020.3

Vol.87

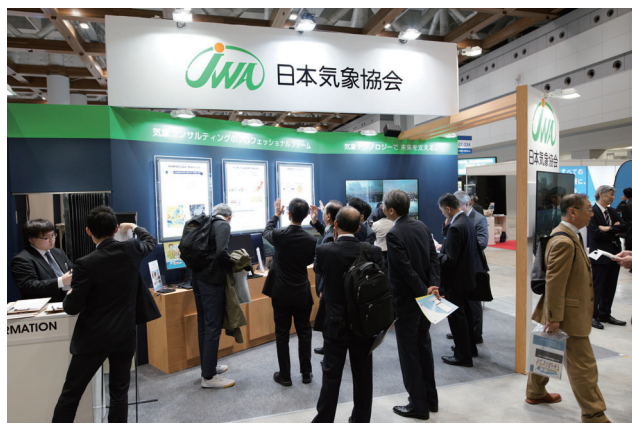
日本気象協会の最新事業のご紹介

Contents1	「気候変動・災害対策Biz 2019」へ出展・講演 ～気候変動対策、災害対策に関する日本気象協会の最新の取り組みを紹介～
Contents2	日本災害情報学会にて、要配慮者利用施設を対象とした 避難確保計画支援ツールの開発と実証実験について発表
Contents3	常総市にて要配慮者利用施設を対象とした 避難確保計画作成会の開催を支援
Contents4	「卒FIT世帯」の余剰電力予測サービスを開始 ～買取事業者の余剰電力活用を気象予測でサポート～
Contents5	「次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究(基盤調査)」を 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)から受託
Contents6	70周年 記念ムービーを公開 ～日本気象協会の「これまで」と「これから」を小学生が歌って踊って紹介～



長野県下伊那郡 駒つなぎの桜

「気候変動・災害対策Biz 2019」へ出展・講演 ～気候変動対策、災害対策に関する日本気象協会の最新の取り組みを紹介～



日本気象協会は、2019年12月4日（水）から6日（金）まで東京ビッグサイトにて開催された「第1回環境・再エネ・レジリエンス展 気候変動・災害対策Biz 2019」にて、ブース出展と講演を行いました。

出展するブースでは、日本気象協会の気候変動・災害対策技術である気候変動対策コンサルティング、再生可能エネルギー予測（太陽光・風力）、電力需要予測、環境アセスメント、線状降水帯等の予測・監視技術、防災啓発事業などを紹介しました。

そのほか、全国の要配慮者利用施設で策定が義務付けられた避難確保計画の策定に関して、日本気象協会が開発した「避難確保計画支援ツール」のタッチ&トライコーナーを設置。実際の避難確保計画をどのように策定するのか、ツールを使った体験ができました。

また、12月4日（水）には、同展示会内のカンファレンス企画にて、「気候変動と気象災害の激甚化それに向けた対策」と題して、京都大学理事補・防災研究所水資源環境研究センター長の角 哲也教授と、日本気象協会CTO/CIOの鈴木 靖との対談形式によるセミナーを開催しました。

セミナーでは西日本豪雨、台風15号、19号を例にとり、異常気象多発時代における水害対策の在り方について話をしました。



この情報に関する詳細につきましては、
下記、ホームページまで。

<https://www.jwa.or.jp/news/2019/11/8628/>

日本災害情報学会にて、要配慮者利用施設を対象とした 避難確保計画支援ツールの開発と実証実験について発表



日本災害情報学会 第21回学会大会での発表の様子

日本気象協会は、10月19日（土）から20日（日）に香川県高松市にて行われた日本災害情報学会 第21回学会大会にて、本社防災ソリューション事業部専任主任技師で工

学博士の本間基寛から、要配慮者利用施設を対象とした避難確保計画支援ツールの開発と、神奈川県川崎市ならびに茨城県常総市で行った実証実験に関する発表を行いました。

■日本気象協会からのコメント

ツールを利用した避難確保計画策定をきっかけに、改めて「避難」に関する悩みを「見える化」することができました。

今後はツールのご提供だけでなく、計画策定の考え方や各種サポートなどを行い、日本気象協会として継続的に活用いただける仕組み作りを行っていくことが大切であると考えています。



この情報に関する詳細につきましては、
下記、ホームページまで。

<https://www.jwa.or.jp/news/2019/11/8593/>

Contents3

2020年2月5日、6日実施

常総市にて要配慮者利用施設を対象とした 避難確保計画作成会の開催を支援



日本気象協会は、2020年2月5日（水）から6日（木）に常総市内で行われた要配慮者利用施設を対象とした避難確保計画作成会を業務支援いたしました。

常総市がある茨城県ではこれまで避難確保計画策定のための説明会を開催してきましたが、説明会で概要を聞くだけでは計画書作成・提出までは至らない、という課題がありました。

そこで、2019年に常総市と日本気象協会が共同で実施した避難確保計画策定支援実証実験の成果をもとに、要配

慮者利用施設管理者を一同に集めた作成会を提案しました。

避難確保計画の策定にあたっては、施設管理者が自ら考え、主体的に計画を作成することが重要となります。

そこで、避難確保計画作成会では各施設管理者が日本気象協会のサポートを受けながら避難確保計画策定ツールを利用することで、自らの施設が抱える災害特性を確認し、実態に即した計画書を完成することができました（作業時間：1.5時間～2時間程度）。

その結果、これまで常総市独自の取り組みのみでは20%程度であった常総市内の要配慮者利用施設の避難確保計画作成率は、約90%まで向上しました（残り10%も作成着手中）。

また、常総市内の要配慮者利用施設は、今後も避難支援サービスを継続利用することにより、避難確保計画の見直しや、避難訓練に活用することができます。



要配慮者利用施設向け避難支援サービスにつきましては、下記、ホームページまで。

<https://www.jwa.or.jp/news/2019/10/8295/>

Contents4

2019.11.26 発表

「卒FIT世帯」の余剰電力予測サービスを開始 ～買取事業者の余剰電力活用を気象予測でサポート～

■ サービスの内容

提供サービス	太陽光発電出力予測	電力需要予測	余剰電力予測
予測要素	太陽光発電出力	電力需要量	余剰電力量
予測対象	電力エリア（北海道、東北、東京、中部、北陸、関西、中国、四国、九州、沖縄） または都道府県単位		
発表頻度	1日48回（30分ごと）		
発表時刻	毎時00分および30分		
時間粒度	30分値		
予測時間	初期時刻の30分後から78時間先まで		
データ形式	XML形式		

日本気象協会は、「卒FIT世帯」の余剰電力買取事業者を支援するため、卒FIT世帯を予測対象とした余剰電力予測サービスを開始しました。

その第一弾として「太陽光発電出力予測」サービスを2019年11月26日（火）から本格的に展開しています。

今後、2020年3月にかけて、卒FIT世帯を予測対象とした「電力需要予測」および「余剰電力予測」などのサービスを拡充を予定しています。

■ サービスの特長

・卒FIT世帯を予測対象とし、一般家庭の屋根上の太陽光発電や電力需要に関する予測条件を設定し、地域性についても考慮しています。

・30分ごとの太陽光発電出力、電力需要量、余剰電力量を電力エリアまたは都道府県単位で、最大78時間先まで予測します。

・予測情報は、インターネット回線を通じて1日48回（30分ごと）配信します。

・本サービスは、『SYNFOS-solar』の技術を活用することで、高精度な太陽光発電出力予測を実現しています。



このサービスに関する詳細につきましては、下記、ホームページまで。

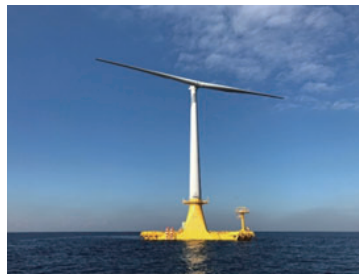
<https://www.jwa.or.jp/news/2019/11/8705/>

「次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究(基盤調査)」を 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)から受託

日本気象協会は、11月14日(木)「次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究(基盤調査)」の委託予定先として国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構から採択されましたのでお知らせします。

日本は周りを海に囲まれた世界屈指の海洋大国であり、洋上風力発電の大きなポテンシャルを有しています。

この中でNEDOは、洋上風力発電システムの設置が難しい水深50～100mの海域の利用を目指し、次世代の浮体式洋上風力発電システムとして、「バージ型」の実証研究および低コストの浮体式洋上風力発電システム技術を確立する「要素技術実証」を推進しています。



次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究において、北九州市沖で実証運転を実施している日本初のバージ型浮体式洋上風力発電システム(写真提供:NEDO)



この情報に関する詳細につきましては、
下記、ホームページまで。

<https://www.jwa.or.jp/news/2019/11/8692/>

70周年 記念ムービーを公開 ～日本気象協会の「これまで」と「これから」を小学生が歌って踊って紹介～



タイトル:日本気象協会70周年記念ムービー「天気の本気で70年」

日本気象協会は、2020年5月10日に創立70周年を迎えます。そこで「気象×ひと」という想いを大切に2019年12月より周年に関する活動を実施しており、第1弾では「70周年記念ロゴ」と「70周年記念キャッチコピー」を発表しました。

第2弾の今回は70周年を記念した「70周年記念ムービー」を特設サイト内で2020年1月14日(火)より公開しました。

■記念ムービーの内容

日本気象協会のこれまでとこれからを学芸会で子供たちが紹介するミュージカル調の記念ムービー。

学芸会という設定を通して、日本気象協会は70周年=70歳であると同時にこれからも“まだまだもっともっと”大きく伸びていく『未来ある子ども』だということも感じてもらえる内容です。



この情報に関する詳細につきましては、
下記、ホームページまで。

<https://www.jwa.or.jp/news/2020/01/8918/>